

地球環境に及ぼす違法伐採の深刻な影響

違法伐採とは？

違法伐採の定義について、国際的に確立されたものはありませんが、それぞれの国の法律に違反して行われる森林の伐採を指すものと理解されています。

例えば保護地域内での伐採、許可量以上の伐採、国際条約で保護された樹種の伐採などが挙げられます。



東南アジアにおける国立公園内伐採の様子
(C) Telapak / EIA

違法伐採の影響

1998年にG8各国が合意したG8森林行動プログラムにおいて、違法伐採は、「国及び地方政府、森林所有者及び地域社会から重要な収入と便益を奪い、森林生態系に被害を与え、木材市場と森林資源の評価を歪め、持続可能な森林経営を阻害する要因として機能する」と論じられています。このように違法伐採は木材生産国の経済面、環境面に大きなマイナスの影響を及ぼし、木材生産国の持続可能な開発に対して大きな阻害要因であるとされています。また、木材市場価格を引き下げることにより、他国の持続可能な森林経営にも影響を及ぼすとの指摘もなされています。

環境インパクト



社会インパクト



図2 違法伐採の影響

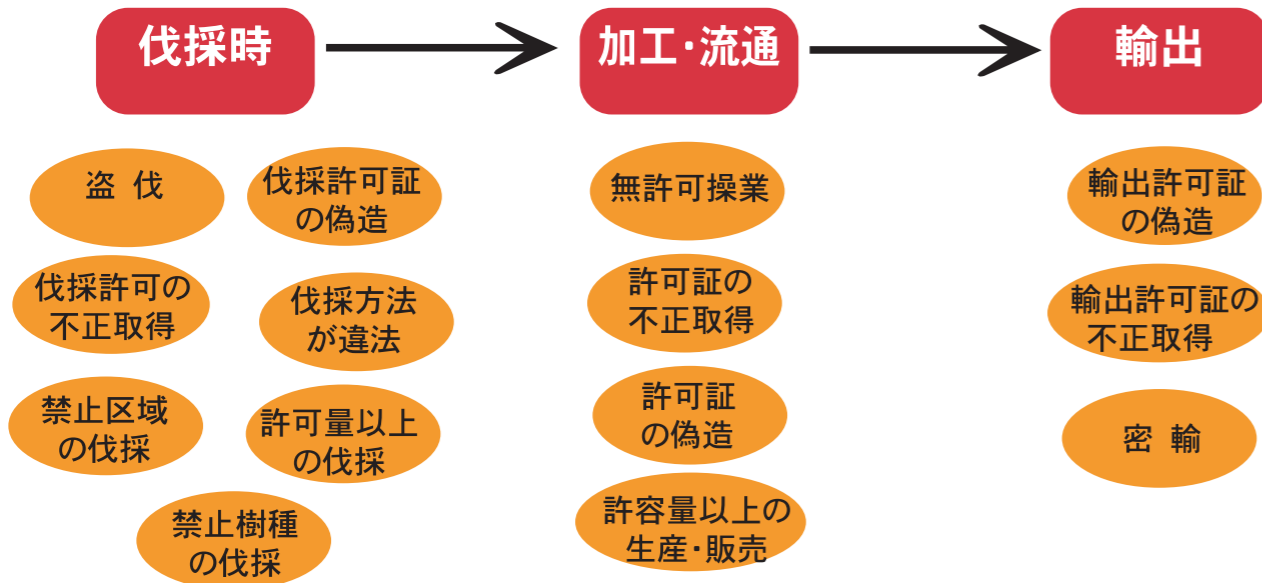


図1 違法伐採に関連する問題



東南アジアにおける森林保護区における伐採の様子
(C) 熱帯林行動ネットワーク

世界の森林の概況

世界の森林は、陸地の約30%を占め、面積約40億haに及びますが、2000年から2005年にかけて、日本の国土の20%の面積に相当する年平均732万haの割合で減少しました。地域別では、熱帯林の分布するアフリカ地域及び南アメリカ地域、アジア地域のうち東南アジアの森林で減少が続いています。近年では、ロシア極東地域における森林の減少も懸念されています。原生林は全森林の36%を占めますが、消失及び原生林以外の森林への変化により、毎年約600万haが減少しています。

[FAO, 「Global Forest Resources Assessment 2005」より]

持続可能な木材生産の重要性

木材の伐採については、各国の森林関係法令上合法的になされることが必要です。また、これとともに、木材が生産される森林についても持続可能な経営がなされることが重要です。



国内でFSC森林認証を取得したスギの人工林
(C) FoE Japan